

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

公営競技向けQR投票システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。



ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。

「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



Green Policy Innovation

環境貢献ソリューション

公営競技向けQR投票システム

「公営競技向けQR投票システム」は、公営競技の投票において、従来のマークカード方式を二次元バーコード化するソリューションです。当システムを導入することで、マークカードやスコアペンといった資源の消費量と運用コスト（保守、物流、保管コストなど）の削減を実現します。また、CO₂排出量の削減にも貢献します。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



気候変動に具体的な対策を

公営競技向けQR投票システムによる業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「公営競技向けQR投票システム」は、公営競技における投票で使用していたマークカードを、スマートフォンを利用して二次元バーコード化するソリューションです。従来、ファンは自分が予想する着順をマークカードに記入し場内の自動券売機に入れて投票していましたが、当システムを導入することで二次元バーコードでの投票が可能になります。

これにより、マークカードだけでなく、マークカードに記入するためのスコアペンの消費量を削減できます。また、これら消費量が減ることで回収・補充作業の負担が軽減され、保管を含む運用コストの削減に繋がります。加えて、モノの消費や作業工数などにかかわるCO₂排出量の削減にも貢献します。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約16% ※富士通フロンテック試算

【算出条件】

- ・対象端末機台数：約385台（対象拠点18場）
- ・QR投票利用率：約20%（他業種実績）

【導入前】

マークカード消費量：約120百万枚／年、スコアペン消費量：約7百万本／年

【導入後】

マークカード消費量：約96百万枚／年

⇒約24百万枚／年の削減

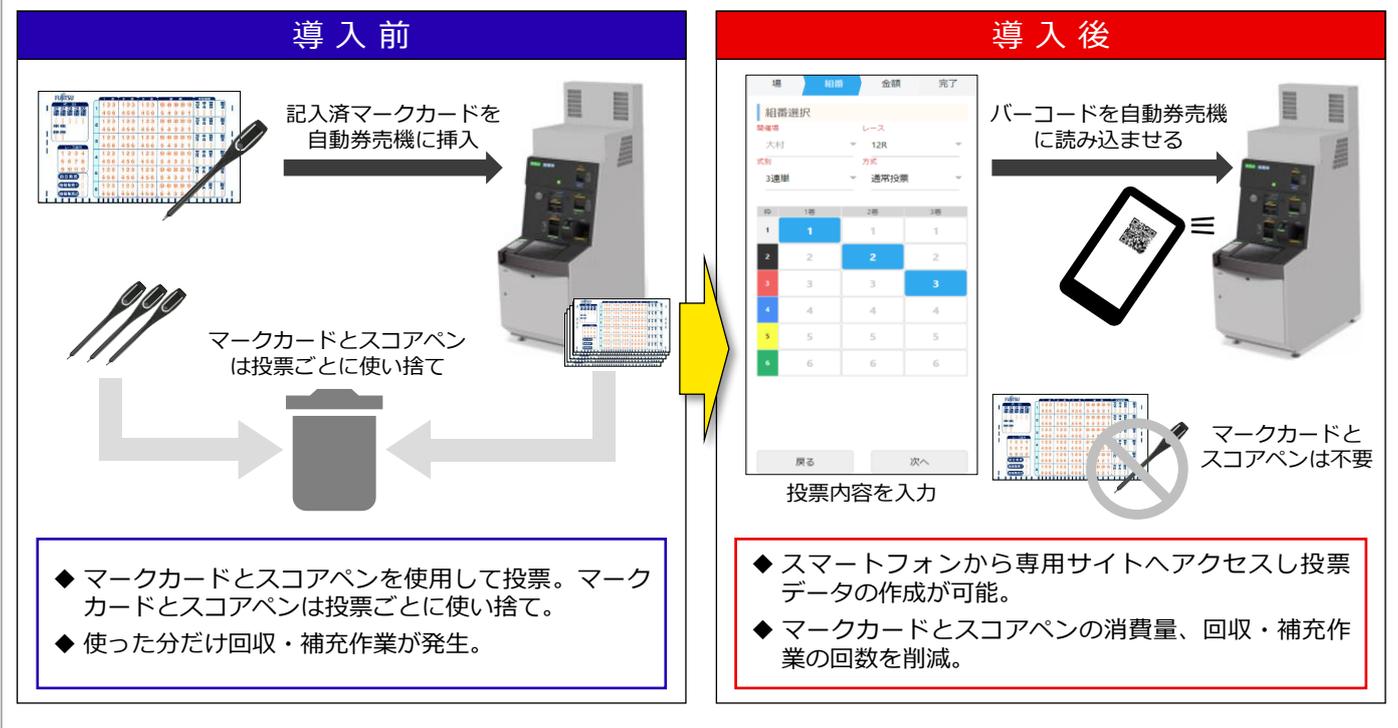
スコアペン消費量：約5.6百万本／年

⇒約1.4百万本／年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

公営競技向けQR投票システムの導入によって、何故、資源の消費量や運用コストが削減されるのか？

- ① スマートフォンに入力、二次元バーコード化して投票が可能のため、マークカードやスコアペンを使用する必要がなくなります。
- ② マークカード等の消費量が減ることで、回収・補充作業にかかるコストや保管コストを削減できます。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

トータルゼータ&アミューズメント事業本部 第一システム事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/products>